

### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.11.30 時点)

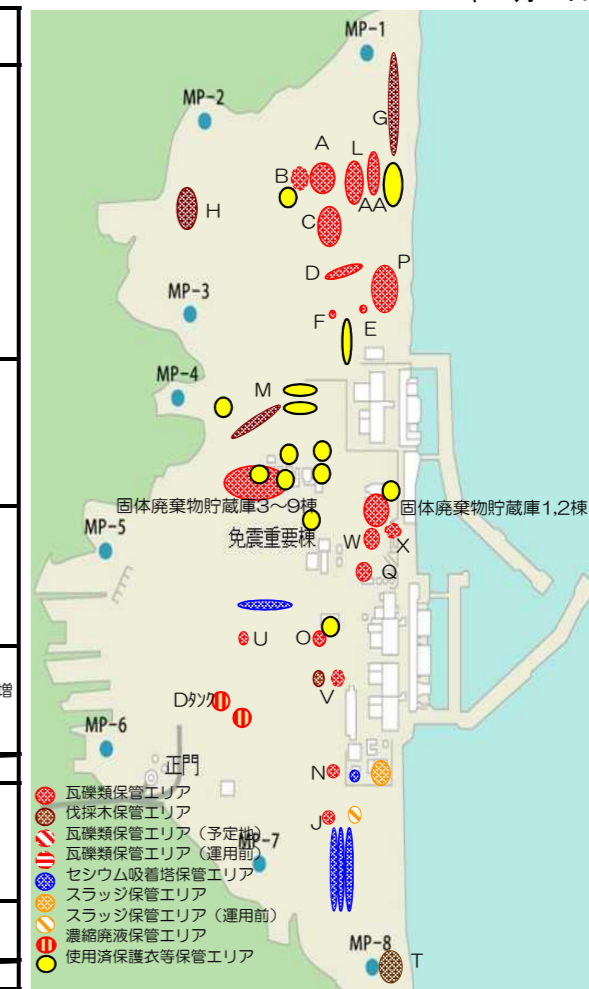
分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比 <sup>※1</sup> (2018.11.29)	変動 <sup>※2</sup> 理由	エリア 占有率	保管量 <sup>※3</sup> /保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01	2,500 m <sup>3</sup>	-200 m <sup>3</sup>	①	77%	183600 / 250700 (73%)	・フランジタンク解体片 2018年11月末時点でコンテナ884基保管。 エリアP1コンテナ数: 654基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数: 230基 (2018年3月15日～)
	C	屋外集積	0.01未満	61,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	97%		
	F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	85%		
	J	屋外集積	0.01	4,400 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	②	55%		
	N	屋外集積	0.01未満	4,900 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	49%		
	O	屋外集積	0.01未満	43,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	85%		
	P1	屋外集積	0.01未満	47,900 m <sup>3</sup>	-300 m <sup>3</sup>	③	75%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	3,900 m <sup>3</sup>	+500 m <sup>3</sup>	④⑤⑥	65%		
	AA	屋外集積	0.01未満	7,600 m <sup>3</sup>	+800 m <sup>3</sup>	⑥	21%		
瓦礫類 シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	58%	38300 / 71000 (54%)	・エリアWでの車両解体(プレス等)完了。(2018年1月)
	E1	シート養生	0.02	14,100 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	⑦	88%		
	P2	シート養生	0.01	5,600 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	⑥	62%		
	W	シート養生	0.03	8,100 m <sup>3</sup>	微減	—	26%		
瓦礫類 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%	19000 / 31700 (60%)	・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量(4,000m <sup>3</sup> )増加。 (2018年5月)
	A	仮設保管設備	0.14	1,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	15%		
	E2	容器 <sup>※4</sup>	0.02	300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	19%		
	F1	容器	0.01未満	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	99%		
瓦礫類 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 <sup>※4</sup>	0.01	11,700 m <sup>3</sup>	+600 m <sup>3</sup>	⑧⑨⑩	26%	11700 / 45600 (26%)	・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量(33,600m <sup>3</sup> )増加。 (2018年2月)
	合計(ガレキ)				252,400 m <sup>3</sup>	+1,700 m <sup>3</sup>	—	60%	
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,300 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	—	63%	96700 / 134000 (72%)	
	H	屋外集積	0.01未満	31,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	74%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%		
	V	屋外集積	0.01	100 m <sup>3</sup>	微増	—	2%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—		
伐採木 一時保管槽 (枝・葉)	T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	94%		
	合計(伐採木)				134,000 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	—	76%	
保護衣 屋外集積	容器	0.04	51,900 m <sup>3</sup>	-1,900 m <sup>3</sup>	⑪	73%	51900 / 71200 (73%)	・使用済保護衣等焼却量 5261t (2018年11月末累積) ・焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 1141本 (2018年11月末累積)	
	合計(使用済保護衣等)				51,900 m <sup>3</sup>	-1,900 m <sup>3</sup>	—	73%	

※1 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは100m<sup>3</sup>未満の増減を示す。

※2 主な変動理由: ①一時保管エリアJへ瓦礫の移動 ②一時保管エリアBからの移動 ③一時保管エリアCへ瓦礫の移動 ④構内一般廃棄物保管 ⑤構内瓦礫保管  
⑥タンク関連工事 ⑦一時保管エリアP1からの移動 ⑧1~4号機建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ⑨構内所有者不明物品の受入 ⑩一時保管エリアWからの移動 ⑪焼却運転

※3 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

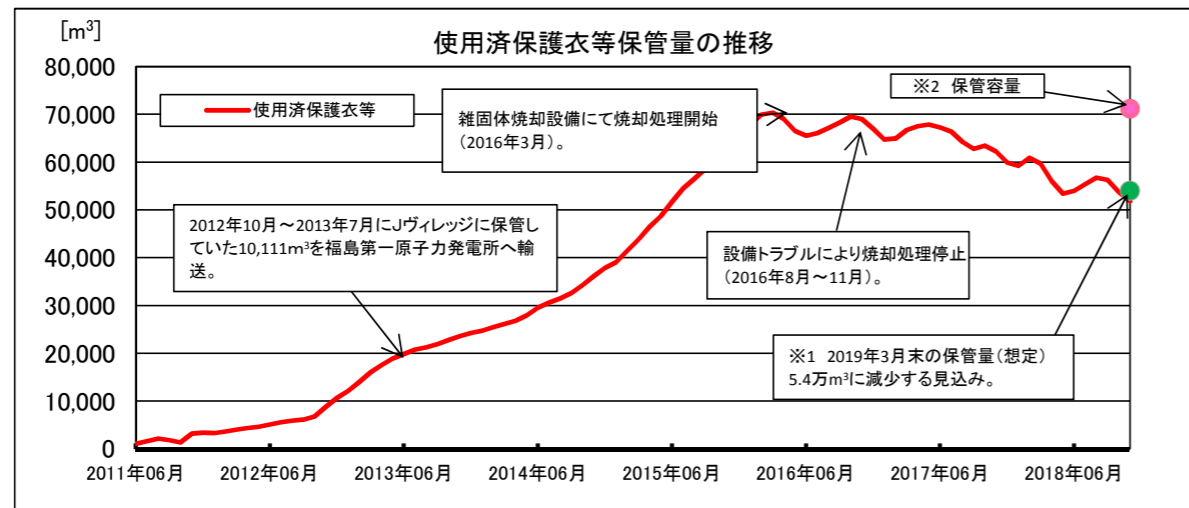
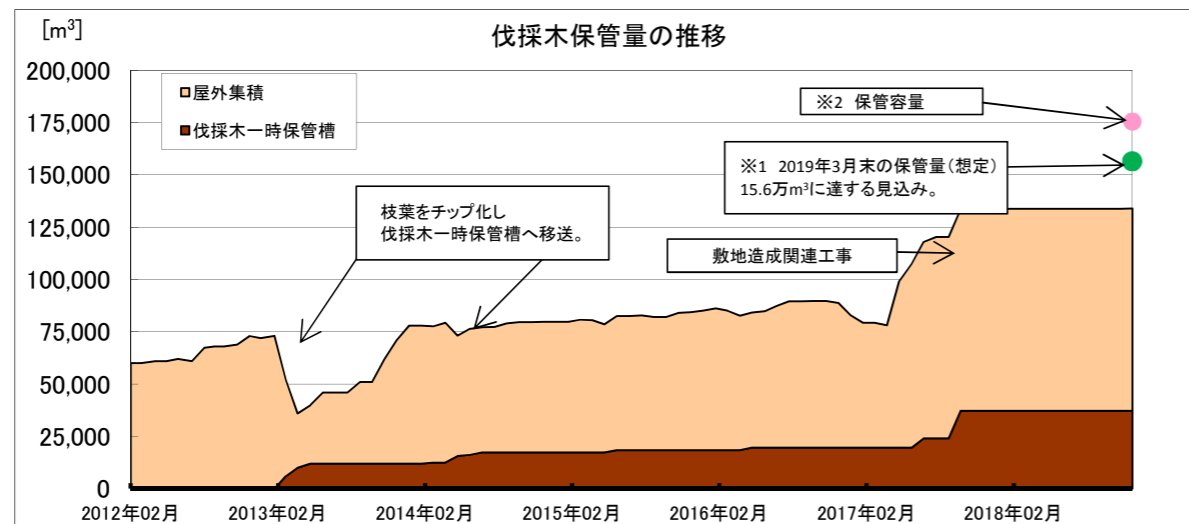
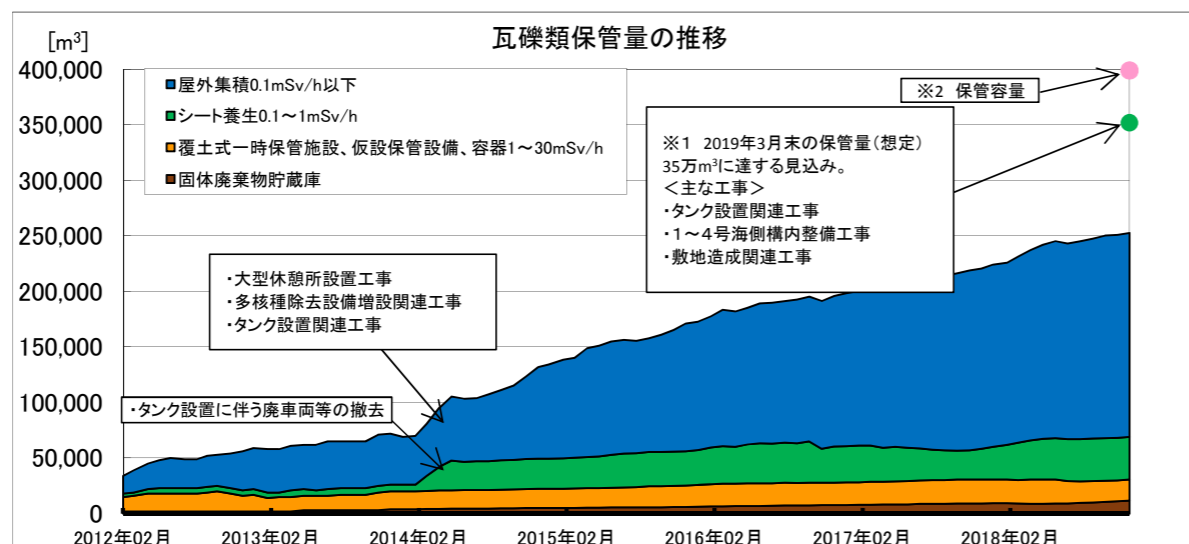
※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。



### 水処理二次廃棄物の管理状況(2018.12.6時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2018.11.29)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	771 本	0 本	4226 / 6372 (66%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	208 本	0 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,557 基			+23 基
			増設	1,402 基			+25 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	74 本	0 本			
多核種除去設備処理カラム	11 塔	0 塔					
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	203 本	0 本					
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。		
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,352 m <sup>3</sup>	-12 m <sup>3</sup>	9352 / 10700 (87%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量: 9252 [m] タンク底部~水位計の保管量(DS): 約100[m]		

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.11.30 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2018年3月26日認可)の予測値を示す。  
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.12.6時点)

